

インターンシップ		実習	就職委員会	
科目カテゴリー	自由科目		科目ナンバリング	11400301 12400301 13400201

1. 授業のねらい・概要

インターンシップは、学生が企業や自治体等で就業体験を行うものである。これは、自己の職業適性を知り、職業選択や将来設計について考える重要な機会となる。本実習は、インターンシップ参加に先立つ事前学修、また参加後の事後学修を通して、高い職業意識をもって主体的に職業選択を行うことで、就職活動を成功させるとともに、就職先の職場適応力を向上させることを目標とする。また高度な知識や技術などに触れながら就業体験を積み重ねることで、課題解決・探求能力、実行力といった社会人として必要な能力を高め、自主的に考え行動できる人材となることを目指す。

2. 授業の進め方

まずインターンシップ参加に先立って、業界研究、自己分析、実習先の選定方法、応募にかかる手続き、基本的なビジネスマナーなどに関する事前学修を行う。実習ではその活動内容や学んだ事柄などを1日ごとに報告書（日報）にまとめる。事後学修として2回に分けて報告会を開催する（11月の予定）。各人は報告書をもとに発表資料を作成し、活動の内容や実際に感じたことなどについてプレゼンテーションする。そして参加者間で討論することで体験と情報を共有する。

なお、実際の就業体験は合計5日間以上とする。同一の実習先で5日間以上連続して行うことが望ましい。

3. 授業計画

1. ガイダンス	14. インターンシップ報告会（1）※11月予定
2. 業界研究と実習先の選定法の紹介	15. インターンシップ報告会（2）※11月予定
3. 自己分析	
4. 実習先の選定方法や応募方法	
5. 基本的なビジネスマナー	
6. 各種手続きや実習報告書の作成上の注意	
7. ～13. 実習先での就業体験（計5日以上）ならびに報告書作成	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前学修の各テーマについて自らリサーチを行うとともに、必要なスキルやマナーに関することから十分に復習しておく。実習中は必ず日報を作成し、振り返りを記入する。実習終了後は報告書として就業体験をまとめる。各回におよそ2時間の学修が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ報告書等については、報告会において講評を行う。

6. 授業における学修の到達目標

就業体験を通じて、基本的なビジネスマナーを習得するとともに、各職場の求める職能や人物像と自己の現状とを照らし合わせ、自分がこれから強化すべきポイントを明らかにする。また、自身の職業観をより具体化させて主体的に就職活動に臨み、自ら望みしかも適性に合った職業選択に結びつくことを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

事前研修レポート（30%）実習先企業による評価・インターンシップ報告書等（40%）報告会への参加（30%）を総合して評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて紹介する。

9. 受講上の留意事項

インターンシップは、夏期休暇やその前後で計5日間以上参加すること。インターンシップは実習先の好意で行われるものであり、事前研修を十分に修得し、実習先への感謝の気持ちを持って対応すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当なし。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。